

紅てまり(べにてまり)

出願番号：第9685号

出願年月日：平成9年3月27日

出願者：山形県（山形県山形市松波
2-8-1）

育成者：山口正己 石黒亮 新野清
西村幸一 野口協一 阿部
芳幸 佐藤功 木戸啓二

安藤榮壽 高瀬絃一 米野

智弥 大沼幸男 渡部昭

大場節子 佐竹正行

来歴：「ビック」と「佐藤錦」の
交雑実生

育成地：山形県寒河江市（山形県立
園芸試験場）

特性

■栽培特性

樹姿は若木のうちは直立するが、結実とともに開張して中程度となる。樹勢は中程度であり、枝梢の発生程度も中である。花芽の着生はやや多であり、樹勢が強い場合は結実は中程度であるが、樹勢が落ち着いて結果枝がやや下垂するようになると結実は非常に良好となる。葉の形は短楕形で、大きさは大である。蜜腺の形は腎臓形である。

開花期は育成地において「佐藤錦」より、1~2日早く、「ナポレオン」とほぼ同時期である。育成地での開花期は4月下旬である。交配和合性のある品種は「佐藤錦」「ナポレオン」「南陽」であり、「高砂」とは実用的な和合性はない。

■果実特性

果形は短心臓形~扁円形であり、果頂部は平ら、梗あ部の深さは中で、広さは広い。果実の大きさは10g以上になり極大である。果肉の硬さは硬く樹上で軟化しにくい。核の大きさは中であるが、果実に比べて小さい。果皮着色は鮮紅色から濃紅色に着色し、着色は容易である。条件が良いと紫赤色に近いくらいまで着色する。果肉色ははじめ乳白色であるが、熟度が進むと核周囲に紅色素が入り、果肉色も若干黄みを帯びたクリーム色となる。熟りに達していない場合は、苦味の残る場合があるが、熟度が進むにつれて苦味はなくなる。

糖度は通常19%前後で、20%以上になることが多い。酸度はpH3.9前後で、適度の酸味もあり、食味は濃厚である。成熟日数は満開後65~70日で、「ナポレオン」より5日程度遅く収穫される極晩生種である。育成地では7月上旬に熟する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

早取りをすると苦味が残ったり、過熟になると軸抜けが出る年もあり、さらに、果実の熟度より着色が先行するので、果皮着色に惑わされずに満開後の日数等を参考にして適期収穫をする。

収穫時期が遅いので、アルタナリア菌やショウジョウバエの防除は留意する。このため早生種の中に点在して植栽することは病虫害防除の点で良くない。また、裂果の発生は特に多くはないが、果実肥大が良好であり、収穫時期も遅いので、雨除けテントは必須である。

■地域適応性

通常のおうとう主要品種が栽培可能な地域であれば栽培は可能である。収穫時期が遅いので、病虫害の防除は徹底する必要があるが、着色が容易なので、「佐藤錦」等の着色が困難な地域での栽培も可能と思われる。

(西村幸一)